

【YGP 2026 Japan 審査員・ICE 講師】

オスロ国立芸術大学（ノルウェー） クラシック・バレエ教授、クラシック・バレエ学士課程統括

ティム・アルマース Tim Almaas



ロイヤル・スウェーディッシュ・バレエ・スクールで学ぶ。1980年卒業後、ロイヤル・スウェーデン・バレエに入団し、1983年ソリストとしてベルリン・ドイツ・オペラ・バレエに移籍。1985年、ロンドン・フェスティバル・バレエ（LFB）に加わり、1987年、ロンドン・シティ・バレエのプリンシパルとなる。翌年、LFB（現イングリッシュ・ナショナル・バレエ）にプリンシパルとして復帰し、1994-1997年にはフリーとして世界中で客演する。その後、ピーター・シャウフス・バレエの創設メンバーとなり、プリンシパル、バレエ・マスターとして活躍。クラシック・ダンサー引退後も、2012年まで同団でゲスト・アーティストとして踊る。これまで20年以上指導にあたり、ロイヤル・スウェーディッシュ・バレエ、ランペール・ダンス・カンパニー、シティ・バレエ・オブ・ロンドンで教える。ロンドンのセントラル・スクール・オブ・バレエ（2000-2002年）、ロイヤル・スウェーディッシュ・バレエ・スクール（2002-2013年）の教師を務めたあと、オスロ国立芸術大学の准教授となる。また、セントラル・スクール・オブ・バレエ、ロイヤル・スウェーディッシュ・バレエ・スクール、オスロ国立芸術大学で多くの作品を振り付ける。2016年にクラシック・バレエ学部教授となり、2019年より現職。

ユース・アメリカ・グランプリ（アメリカ） 芸術監督補佐

元ポリショイ劇場 プリンシパル、シルク・ドゥ・ソレイユ プリンシパル

ナタリア・バシュカトヴァ Natalia Bashkatova



© Tamara Knight

ロシア出身。モスクワのポリショイ・バレエ・アカデミー、ポリショイ・バレエ大学で学ぶ。1989-1994年、ポリショイ劇場グリゴロヴィチ・バレエでプリンシパルとして活躍し、その後、ニューヨーク・シティ・バレエのゲスト・プリンシパルとして活躍する。多くのクラシック作品で主役を務め、1992年スポルト国際芸術フェスティバル（イタリア）で、最優秀バレリーナ賞を授与される。ヨーロッパ、アジアなど世界中をツアーで回り、踊った経験を持つ。アメリカに移住後、ラスベガスのシルク・ドゥ・ソレイユに加わり、「ミスティア」のリード・ダンサーを務める。1998年、オランダに移り、シルク・ドゥ・ソレイユの「ラ・ヌーバ」に出演し、2017年に閉幕するまで19年に渡りロスト・バレリーナ役を務める。また、シルク・ドゥ・ソレイユの様々なTVコマーシャル、インタビュー、ビデオでも取り上げられる。モスクワ国立舞踊アカデミーで教員資格を取得しており、クラシックのみならず他のジャンルのダンス経験も活かし、マスター・ティーチャーとして世界中で指導にあたる。YAGPでも長年に渡り審査員、マスター・ティーチャーを務めてきた。

チューリッヒ・ダンス・アカデミー（スイス）ダンス部門統括

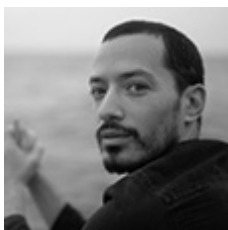
ジェイソン・ビーチャー Jason Beechey



カナダ・ナショナル・バレエ・スクール、ワガノワ・バレエ・アカデミー（サンクトペテルブルク）、スクール・オブ・アメリカン・バレエ（NY）で学ぶ。ロンドン・シティ・バレエでソリストとして踊った後、ベルギーのシャルルロワノダンスにて15年間活躍した。それと並行して、ワロニア・ブリュッセル財団振付センターの教育監督を務め、自身のスタジオ「ザ・ロフト」を設立、経営する。また、フレデリック・フラマン、ウィリアム・フォーサイス、ウエイン・マクレー、アンジュラン・プレジョカージュらの芸術監督の元、D.A.N.C.E.プログラムのクリエイター／コーディネーターを務める。2009年ローザンヌ国際コンクールの芸術委員会のメンバーに加わり、芸術アドバイザーとしての役割を担っている。また、例年、YAGPの審査員を務めている。ドレスデン・パルッカ・ダンス大学の学長を18年務めた後、2024年現職に就任する。2021年にはその貢献が称えられKen McArthur賞受賞、ドイツDancer Transition Foundationの役員を務めている。

ICE 講師、振付家（イスラエル）

シャハール・ビンヤミニ Shahar Binyamini



© David Haase

2006年から2013年までバットシェバ舞踊団に所属し、オハッド・ナハリンやシャロン・エヤルなどの振付作品を通じて、その解釈力を発揮する。2016年にはシンガポールのフロンティア・ダンスランドで『FLAT』を発表。パリ・オペラ座バレエ、ヨーテボリ・ダンス・カンパニー、バレエBC、オペラ・バレエ・フランダース、ボルドー国立バレエ、ガウティエ・ダンス・カンパニー、ノルダンス、ライン・バレエ、サンパウロ・ダンス・カンパニーなど名だたる舞踊団に作品を提供する。2022年には、上海ファッションウィークのオープニング作品として振付が委嘱され、現代舞踊が国際的な文化イベントに統合される重要な節目となる。また、SZAのヒット曲「SNOOZE」のミュージックビデオで振付を担当し、ジャンルを超えた表現力を示す。2013年には、ワイツマン科学研究所のアタン・グロス教授とともに、ダンス・科学・振付の交差点に位置する革新的な研究グループ「TNUDA」を設立する。学術界にも進出し、UCLAでは客員教授として活躍し、オペラ・ダンス学部のために『LUNG』という作品を創作する。2021年には、イスラエル文化省より「将来有望な振付家賞」を受賞。世界の舞台芸術界において独自の道を切り拓き続けている。

パオラ・カンタルポ Paola Cantalupo



© I. Blanco

英国

ホセ・カラヨル

イタリア出身。ミラノ・スカラ座で学ぶ。ローザンヌ国際バレエコンクールでは金賞を、ジャクソン国際コンクールでは銅賞を受賞し、モーリス・ベジャール 20 世紀バレエ団、ジョン・ノイマイヤーのハンプルク・バレエに入団する。1 年間ニューヨークでチケット、リモン・メソッドを学んだ後、ポルトガル国立バレエにプリンシパルとして入団、1988 年にモンテカルロ・バレエに移る。クラシックのレパートリーはもちろん、数多くの振付家の作品を踊る。1989 年、ハノーファー公妃よりモンテカルロ・バレエのエトワールに任命され、2009 年まで同バレエ団で活躍。モナコ文化勲章シュヴァリエ章を受章する。パリのフランス国立ダンスセンター（Pantin）での教師養成コース修了後、現職となる。以来、フランス文化省の要請を受け、地中海地域におけるダンス発展のために尽力している。またローザンヌ国際バレエコンクールの芸術委員会の一員であり、ダンス医学調査会（ADMR）の副会長も務める。

ロイヤル・バレエ・スクール（イギリス）アーティスティック・プログラム統括

José Carayol



国費奨学金を得て、スペインの Real Conservatorio Profesional de Danza de Madrid で学び、ヴィクトール・ウラテ、カルメン・ロシュ、オランダ・サルガドに師事する。世界中のカンパニーで踊り、クラシックからコンテンポラリーまで、そのレパートリーは多岐にわたる。ダンサーとしてのキャリアの後半は、教えることにフォーカスするようになり、NY で ABT ナショナル・トレーニング・カリキュラム・ティーチャーズ・コースを履修する。卒業後は、ABT® Project Plie プログラムのアソシエイト・ティーチャーとなり、クラシックバレエ芸術への情熱を若い世代に伝えながら、アメリカ国内のダイバーシティ & インクルージョン（多様性を重んじ、個々の格差を持たせない教育方法）をサポートすることを目的としたプログラムを実施する。また、ロサンゼルス・バレエ・アカデミーでは、コンサバトリー・プログラムとメンズ・プログラムの教師兼責任者を務める。その間、南カリフォルニアでプロコースの生徒を育てる環境を整えながら、男子プログラムをさらに発展させるために重要な役割を果たす。2019 年より、シカゴのジョフリー・バレエのスタジオ・カンパニーおよびトレイニー・プログラム主任を務め、2021 年より現職となる。

アントワープ王立バレエ・スクール（ベルギー）芸術監督

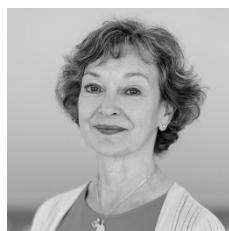
ケヴィン・ドゥールワエル Kevin Durwael



1998 年にアントワープ王立バレエ・スクールを卒業後、NDT2（ネザーランド・ダンス・シアター）に入団し、イリ・キリアン、ソル・レオン、ポール・ライトフット、オハッド・ナハリンらの作品を踊る。1999 年、ベルギー王立ロイヤル・フランダース・バレエ団に移籍し、ウィリアム・フォーサイス、デイヴィッド・ドーソン、マルシア・ハイデ、クリスチャン・シュブック、ヨルマ・エロらと活動する。ダンサーとして活躍する傍ら、フランス、ポーランド、イタリア、トルコ、日本、アメリカ、チェコ、イスラエル、南アフリカなど世界中でマスタークラスを教える。YAGP、ヴァルナ国際バレエコンクール、タンツオリンピ、ヘルシンキ国際バレエコンクールなど様々な国際コンクールのために、数々のソロ、アンサンブル作品を振付する。2012 年、アントワープ芸術大学を舞踊講師のディプロマを取得して卒業する。アントワープ王立バレエ・スクールでは、クラシック・バレエ、男子クラス、パ・ド・ドゥ、レパートリー、コンテンポラリー・ダンス、振付を教え、アメリカン・アカデミー・オブ・バレエのゲスト・ティーチャー及び振付家でもある。

ハンプルク・バレエ・スクール（ドイツ） 暫定校長

ジジ・ハイアット Gigi Hyatt



© Kiran West

ドイツ・ベルリンでタチアナ・グソフスキーに師事し、ミュンヘンではハインツ・ボスル財団にてコンスタンツェ・ヴェルノンのもとで研鑽を積む。1980 年ローザンヌ国際バレエコンクール・ファイナリストとなり、1982 年ジャクソン国際バレエコンクール・ジュニア部門で金賞を受賞。同年、ハンプルク・バレエ（ジョン・ノイマイヤー芸術監督）に入団する。1984 年 Wilhelm Oberdorfer 賞を受賞、1985 年には『Ballett International』誌より「最優秀若手ダンサー」に選ばれる。入団初年度にソリストへ昇格し、1986 年にはプリンシパル・ダンサーとなる。ジョン・ノイマイヤー振付の多くの作品に出演し、数々の主役を務める。1997 年に引退し、アメリカへ移住。ジョージア・バレエ団および付属スクールでバレエ・ミストレスおよび教師として活動を開始し、2004 年芸術監督に就任する。2013 年ハンプルク・バレエ・スクールの教育責任者および副校長に就任。本年は同校の暫定校長を務めている。

NB2 ナッシュビル・セカンド・カンパニー（アメリカ） 監督

マリア・コンラッド Maria Konrad

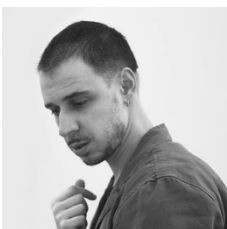


© hollisterthomas

A.W.ドレイフース芸術学校（アメリカ）を卒業し、フィラデルフィア芸術大学（アメリカ）で舞台芸術の美術学士を取得する。その作品はカンザス・シティ・バレエ、フィラデルフィア・バレエ 2、オクラホマ・シティ・バレエ・スタジオ・カンパニー、NB2 など多くのバレエ団により上演されている。オペラ・タンパでの「真珠採り」「アイーダ」などオペラ作品も手掛け、マリンスキー劇場バレエでは「マエストロ」を上演する。その他、ネルヴィ・フェスティバル（イタリア）、スポレート・フェスティバル（アメリカ）など様々なフェスティバルでも作品を発表する。YAGP 2022 インターナショナル・ファイナルのほか、Young Arts、ADCIBC などで優秀振付賞を受賞する。コロラド・バレエ・スクール、ナッシュビル・バレエ、タルサ・バレエ、フィラデルフィア・バレエ、ジョフリー・バレエ、ネクスト・ジェネレーション・バレエ、ジャクソン国際バレエコンクールなどで講師を務め、YAGP にも審査員、指導者として携わる。ネクスト・ジェネレーション・バレエの常任振付家であり、ピーナス・ウィリアムズによるフィットネス・ブランド「イレブン」ではゲスト・インストラクターを務める。また、So'Danca の YouTube シリーズ「Barre Talk」では、ホストとして著名なダンサーとの交流を公開している。



北海道生まれ。16歳の時、ローザンヌ国際コンクールにてスカラーシップ賞を受賞し、英国ロイヤル・バレエ・スクールに入学。1997年卒業と同時に英国ロイヤル・バレエ団に入団し、17年間活躍する。数多くの作品でソリストおよびプリンシパル役を務め、K. マクミラン、F. アシュトン、C. ウィールドン、G. バランシン、J. キリアン、W. フォーサイス、W. タケット、L. スカーレット、W. マクレガー、D. ビントレー、M. コーダー、M. ハート、M. ルナクル・テンブル振付の作品を含む様々な作品で主要な役を踊る。英国ロイヤル・バレエ・スクールのゲスト・ティーチャーを務め、2014年バレエ団退団後は同スクールの日本人初の専任アーティスティック・ティーチャーとなる。2023年9月、熊川哲也が創設者・芸術監督であるK-BALLET TOKYO 附属のK-BALLET ACADEMY / SCHOOLの校長に就任する。



ダンスカンパニー「オクラム・ダンス・ムーブメント」の芸術監督を務める。2013年、シュツガルト・バレエ・ジョン・クランコ・スクールと協力関係を結ぶ。2016年以降、イタリア、ドイツ、アメリカ、アルゼンチン、ハンガリー、スペイン、ポルトガル、スロベニア、トルコ、ギリシャ、フランスなど、世界中の劇場や数々の国際フェスティバルで作品を上演する。2017年、CODARTS (ロッテルダム) で開催された Wicked Weekend COMMA に振付家として招聘される。2019年、Festival Certamen Coreografico distrito de Tetuan (マドリッド) では、彼の作品である「AMUNINNI」で最優秀振付家にノミネートされた。同年、Conservatório Internacional de Ballet e Dança (ポルトガル・レイリア) のアナネラ・サンチェスと芸術面でコラボレーションを始める。またこの年に政治科学の学位を得る。2021年、ポーニヤ市協力のコンクール dancin'bo world connection の芸術監督に任命される。2022年よりイタリアのナショナル振付センター - Scenario Pubblico にてアソシエート・コレオグラファーを務めている。



イタリア・ローマ生まれ。ローマ歌劇場でダンスの訓練を受けた後、モナコのアカデミー・ド・ダンス・クラシック・ド・モンテカルロを卒業し、シュトゥットガルト・バレエ団でキャリアをスタートさせる。プリンシパルとして、多くのジョン・クランコ作品で主役を務める。その後、バーミンガム・ロイヤル・バレエにプリンシパルとして加わり、アシュトンやマクミランの作品にも出演する。長年にわたり、マルシア・ハイデー、デヴィッド・ピントリー、ピーター・ライト、モーリス・ベジャールなど、長年にわたりバレエ界の著名人たちと共演してきた。現役引退後、ロンドンでピラティス教師養成プログラムを修了し、解剖学と怪我の予防に焦点を当てる。その後、ヒューストン・バレエ・アカデミーに加わり、2008年にはヒューストン・バレエ II のバレエ・ミストレスおよびアップパースクールの校長に就任する。また、ヒューストン・バレエ、コロラド・バレエ、バーミンガム・ロイヤル・バレエ、シュトゥットガルト・バレエ、東京のアーキタンツなどでもゲスト講師として指導にあたる。2017年にクラシック教師としてオーストラリア・バレエ学校に加わり、豊富な知識と経験のもと女性生徒たちの指導にあっている。



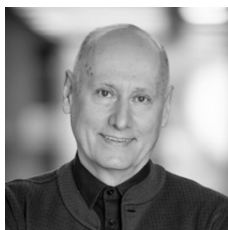
© PMG-Image Paul McGrath

アルメニア振付アカデミーにて、ワガノフ・メソッドを学ぶ。卒業後は、アルメニア国立バレエ、ウクライナ国立ドネツク歌劇場バレエ、インディアナポリス・バレエ・インターナショナル、シンシナティ・バレエ、サラソタ・バレエをはじめ、数々のバレエ団でソリストおよびプリンシパルとして活躍する。また、その指導の才能が認められ、モスクワのロシア国立舞台芸術大学 (GITIS) の奨学生として選出される。マスター・ティーチャーとして多くの名門バレエ学校で指導にあたるほか、YAGP をはじめ数多くの国際バレエコンクールの審査員も務める。2007年よりアルバータ・バレエ・スクールでバレエ教師を務めるが、プロのダンサーとしての幅広い経験とマスター・ティーチャーとして世界中で指導にあたってきた経験から、スクールに独自の視点をもたらしている。2014年7月、アルバータ・バレエII設立に際し、プログラム・ディレクターに任命され、2017年より現職を務める。



ミラノスカラ座バレエ学校、スクール・オブ・アメリカン・バレエ、モナコ王立グレースバレエ学校で学び、ベルギー王立フランダース・バレエ、ナンシー・バレエ団、ヘッセン州立ヴィースバーデン・バレエ団、バイエルン国立バレエを経て、2000年よりトゥールーズ・キャピトル劇場バレエで活躍する。クラシック・バレエのみならず、ネオクラシックバレエ作品でも全ての主要なパートを踊り、スタンリー・ウィリアムス、ウラジミール・ヴァシリエフ、アルヴィン・エイリー、ミハイル・バリシニコフ、ウィリアム・フォーサイス、イリ・キリアン、ジョン・ノイマイヤー、モーリス・ベジャールなど、名だたる振付家の作品に多数出演する。その後、バレエマスターとして様々な作品の上演に携わる一方、「Sang Mele」「Christ's Lament」「The Seven Deadly Sinns」「Nougaro」など自身の作品を振り付ける。2009年には、トゥールーズ・キャピトル劇場バレエのナネット・グリシャックによるコッペリア初演の助手を務める。同年、現職に任命される。

シュツットガルト・バレエ ジョン・クランコ・スクール（ドイツ）校長
タデウス・マタチ Tadeusz Matacz



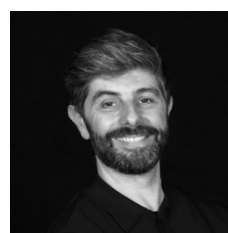
ポーランドのワルシャワで生まれ、ワルシャワの国立バレエアカデミーにてバレエを学ぶ。また同校では、レオニード・ジダーノフのもと、教育法も習得する。1977年、ダンサーとしてワルシャワ大劇場に入団し、また同時に、ワルシャワ・バレエ・スクールでバレエ教師も務めることとなる。1979年から1984年までの間、ワルシャワ大劇場でプリンシパル・ダンサーとして活躍する。1984年から1992年までは、カールスルーエ（ドイツ）のバーデン・ステート・シアターでソリストとして踊る。そこでは1988年から指導にもあたり、1992年から1998年まで、バレエマスター、振付家を務める。1990年から1998年の間には、ゲスト・ティーチャーとしてフランクフルト・バレエ、トゥールーズ・バレエ、ワルシャワ大劇場で指導に当たり、1997年から1998年にはシュツットガルト・バレエでも教える。1999年1月よりジョン・クランコ・スクールの校長を務め、また数々の名だたる国際バレエコンクールで審査員を務めている。

サンフランシスコ・バレエ・スクール（アメリカ） トレーニー・プログラム 副ディレクター
パスカル・モラット Pascal Molat



パリ生まれ。パリオペラ座バレエ学校にて学び、クロード・ベッシーに師事する。ベルギー王立ロイヤル・フランダース・バレエのファースト・ソリスト、モンテカルロ・バレエのプリンシパルを務めた後、2002年から2016年までサンフランシスコ・バレエのプリンシパルとして活躍する。そのレパートリーは、クラシック作品のみならず、バランシン、ベジャール、クランコ、フォーキン、フォーサイス、キリアン、マクミラン、マイヨー、ノイマイヤー、オデイ、ロビンズ、チューダー、ファン・マーネンの作品など、多岐にわたる。2016年に現役引退後は、指導者としてさまざまなバレエ学校で指導を行う。英国ロイヤル・バレエ・スクールではヘルキ・トマソンの「Concerto Grosso」の公演に携わる。その後サンフランシスコ・バレエ附属バレエスクールに所属し、2017年に研修生プログラム監督補佐、2021年より現職を務める。また、2018年よりYAGPの審査員及びマスター・クラスの指導に従事している。その功績によりイサドラ・ダンカン賞を受賞し、2017年にはフランス文化省より芸術文化勲章を受章する。

ハーグ王立音楽院（オランダ） ダンス部門統括（2026年1月より）
フランソワ・プティ François Petit



© Guillaume Musset

フランス・ロワイヤンに生まれ、パリ国立高等音楽・舞踊学校にてアッティリオ・ラビスに師事。卒業時には、最優秀賞を受賞する。1990年、ヴァルナ国際バレエコンクール第1位、パリコンクールではベストヤングダンサー賞、1991年には大阪コンクールにて特別賞など数々の素晴らしい国際的な賞を受賞した経験を持つ。また、ダンス芸術への貢献が評価され、フランス文化省より「芸術文化勲章シュヴァリエ」の称号を授与される。過去30年以上にわたり、ダンサー、バレエマスター、教育者として国際的なキャリアを築き、これまでに、ネザーランド・ダンス・シアター、英国ロイヤル・バレエ、モンテカルロ・バレエ、ミラノ・スカラ座、ローマ歌劇場、チューリッヒ・バレエなど、世界的に著名なカンパニーで活躍してきた。2019年から2023年までは、バーゼル劇場バレエ学校の副校長を務める。芸術的リーダーシップに定評があり、世界中の著名な振付家の作品のリハーサルに携わり、舞台化してきた。その教育理念は、柔軟性、包摂性、そして生徒一人ひとりが自身の芸術的な声を育むことに重点を置いている。

ベルリン国立バレエ学校（ドイツ） 芸術監督
マレク・ルーズィツキー Marek Różycki



© Johann Sebastian Hänel

ポーランド出身。ポズナン国立バレエスクールで学び、ポーリッシュ・ダンス・シアター、ブレマー・ダンス・シアターで踊る。1982年ベルリン・ドイツ・オペラ入団し、のちにファースト・ソリストに昇格。ベルリン国立バレエでは、ファースト・ソリスト、バレエ・マスター、バレエ教師、振付家として多くの経験を積む。また、デンマークのピーター・シャウフスのカンパニーで、ファースト・バレエ・マスター及び振付助手を務める。その後、パリ国立ダンスセンターの教育学及び振付研究所で学び、クラシックダンスの教授としての国家資格を得る。ライン・バレエではゲスト・ティーチャーを務め、ストラスブルクのレジオン国立舞踊学校ではクラシックダンスの教授として指導にあたる。ベルリンに戻り、コーミッシュ・オーパーのベルリン・バレエ・カンパニーで副芸術監督及びファースト・バレエ・マスターを務める。現在は、振付家やゲスト・ティーチャーとしても精力的に活動し、映画、写真、美術、音楽など、別の芸術分野とのコラボレーションにも意欲的に取り組んでいる。

ドレスデン・バルッカ・ダンス大学（ドイツ） 教学担当副学長
ジュリアナ・サビーノ・ヴィルヘルム Juliana Sabino-Wilhelm



ブラジル・リオデジャネイロ生まれ。地元のさまざまなダンス・スクールで学び、リオデジャネイロ州立バレエ工学校や Y. ビッテンコート氏による個人指導を受ける。その後、ニューヨークに移り、スクール・オブ・アメリカン・バレエで学ぶ。卒業後は、ドイツ・ドレスデンのゼンパーオーバー・バレエにてプロとして活躍し、G. バランシン、W. フォーサイス、J. ノイマイヤー、J. クランコなどの巨匠による作品や、「白鳥の湖」「眠れる森の美女」「くるみ割り人形」「ラ・バヤデル」などの古典作品を幅広く踊る。その後はフリーランスとしてプロジェクトに参加し、ゲスト・アーティストとしても活躍する。2016年には、ドレスデン・バルッカ・ダンス大学にてダンス教育学の修士課程を優秀な成績で修了する。2015年から同大学のクラシック・バレエ部門の教員となり、2019年にはクラシック・バレエの教授に昇格。2021年からはダンス・プログラムの責任者を務め、さらに2024年秋から現職となる。

ロック・スクール・フォー・ダンス・エデュケーション（アメリカ）校長

ピーター・スターク Peter Stark



スクール・オブ・アメリカン・バレエで学び、ワシントン・バレエ、ワシントン・ナショナル・オペラ、ボストン・バレエ、ニューヨーク・シティ・バレエで活躍する。現在は、アメリカ及びヨーロッパで活躍するダンサーを育成する指導者として、世界的に知られている。アメリカ国内のみならず YAGP をはじめ、ヘルシンキ、ジャクソンなどの著名な国際コンクールでその生徒たちを 1 位入賞に導く。Dance Teacher Magazine の特集記事で取り上げられ、YAGP NY ファイナルではベスト・スクールおよびベスト・ティーチャー賞を受賞、2009 年 10 月 16 日にはフロリダ州オーランドで「ピーター・スターク・デー」が祝われるなど、数々の名誉ある賞を受賞する。これまで、ボストン・バレエ II アソシエート・ディレクター、Next Generation Ballet (フロリダ州タンパ) 創設芸術監督、オーランド・バレエ附属バレエ・スクール校長を務めた経験を持つ。

YGP 2026 Japan スタッフ

■ YAGP 芸術監督／共同創設者	ラリッサ・サヴェリエフ ゲナディ・サヴェリエフ
■ YGP JAPAN 事務局	川西 晴子 長谷川 千帆 川西 恵理 大岩 詩依 小沼 怜奈 奥田 尚美
サポート・チーム	大嶽 夏美 南條 健吾 吉田 早希 グジェレフ マキシム グジェレフ 類子 関崎 千穂 高尾 静奈 友金 うらら 橋谷 美香 舞浜 あこ 松園 直子 ファン ミングス
■ 舞台監督	狩俣 康徳 (KARRYYS Inc.)
舞台進行	田邊 果歩 (KARRYYS Inc.)
■ 照明	伊藤 雅一 (RYU)
■ 音響	宮武 剛史 (N-1 Audio)
■ ピアニスト	秦 絢子 稲葉 智子 榎本 真弓 星 美和 小見山 朋子 福島 未紀 西村 京一郎 畑山 歩美 杉村 友梨 高橋 美穂 竹田 彩夏 真家 香代子
■ 通訳／アナウンス	長田 沙織 青柳 理恵 山崎 南美 定村 絵里 佐藤 りさ子 藤本 佳那子 小笠原 由紀 川西 真理 本吉 由実
■ 写真	スタッフ・テス (株) 松澤 綾子 小川 智恵子 本橋 亜弓 根本 浩太郎 高橋 大輔 渡辺 忍 中林 秀太
■ ビデオ／映像配信	(株) EDITION
■ ウェブサイト	合同会社 イングルウッド
■ シニア女性予選審査 協力ダンサー	飯島 望未 本田 千晃 藤原 青依 佐々木 夢奈 岡野 祐女 佐々木 須弥奈 藤本 佳那子 前田 紗江 升本 結花 中野 里美 奥村 彩 若林 侑希 青木 萌奈美 中野 伶美
■ SPECIAL THANKS	五十嵐 洋子 堀江 けんいち 畑野 朋子

YGP2027 日本予選開催日

2026 年 10 月 1 日 (木)～10 月 12 日 (月・祝) 東京にて開催決定！

※詳細は、後日 YGP Japan ウェブサイト、SNS 等でお知らせいたします。

Youth Grand Prix Japan

〒107-0062 東京都港区南青山 3-15-9 Minowa 表参道 3F

メール: info@yagp.jp ウェブサイト: <https://ygpjapan.jp/>

Instagram: @yagpjapan Twitter: @YAGP_JAPAN Facebook: Youth America Grand Prix – Japan